

## 令和7年度 新潟小学校教育活動の方針

新潟小学校では、毎日、多くの子どもの笑顔が見られる。それは、自然な姿ではあるが、最も大切にしていけるべきことである。そして、子どもの笑顔により保護者や地域に笑顔が広がっていく、そんな学校を「えがおあふれる学校」として目指してきた。

子どもが、笑顔になるときは、楽しいことがあったときであり、自らの学びに充実感を感じたときであり、友達と力を合わせて活動しているときであり、自らの向上を感じたときである。令和7年度は、このような子どもの姿が、より多く見られることを目指したい。

しかしながら、新潟小学校では、生徒指導上の問題が数多く発生し、その解決に多くの時間や労力が費やされている実態もある。子どもが困っていて、保護者が心配していて、それを解決するべく職員が奔走している学校は、ほかにどれほどの笑顔があろうとも、笑顔があふれているとは言えない。これまでも、そのような問題が起きないように予防的な取り組みを進めるとともに、速やかな解決に向けて全力を上げてきた。令和7年度も、これまでの体制を継続する。それにより、生徒指導上の問題による、笑顔の減少を可能な限り抑えたい。

新潟小学校は、本年度も、「えがおあふれる学校」を目指していく。

### 1 教育目標

教育目標は、令和2年度から継続している「たくましく 美しく」である。

「たくましく」は、本校の児童に求められる資質・能力として浮き彫りとなった「挑む力」「やり抜く力」を表し、「美しく」は「認め合う心」「支え合う心」を表している。これら4つの資質・能力の具体は以下の通りである。

「挑む力」 …目指す高みに向けて挑戦する力

「やり抜く力」…努力を継続する力

「認め合う心」…多様性を理解し、すべての他者を思いやる心

「支え合う心」…他者と協力する良さを理解し、実践する心

この4つの資質・能力が高まるよう、教育活動を推進していく

### 2 教育活動の方針

教育目標を達成し、目指す学校像「えがおあふれる学校」を実現するために一つの土台と三つの柱を定める。

## (1) 教育活動の土台

新潟小学校におけるこれまでの実態を受け、生徒指導上の問題の発生を予防するため、日頃から子どもの話を聞き、発生の前の対応に努める。

問題が発生した場合は、子どもが安心して学校生活を送ることができるように、速やかにチームで対応することを継続する。一つの生徒指導上の問題を長期化させない、深刻化させない、複雑化させないことを第一に職員の総力を挙げて取り組むことを教育活動の土台とする。まずは、聞き取りを行うなど事実の把握に努め、職員が情報を速やかに共有し、適切に支援や指導を行う。

その際、再発防止を含め、子どもの生きる力を高めるために自らに向き合えるよう、子ども自身に考えさせる支援や指導を大切にする。問題の解決場面においても、「認め合う心」の育成を心掛ける。これにより、以後における問題回避や自力解決に導いていきたい。

## (2) 教育活動の柱

### ① 子ども一人一人を大切にしたい学び

子ども一人一人、興味関心は違い、得意不得意も違う。当然、一人一人に合った学びも違ってくる。この多様性を可能な限り受け止め、子どもに寄り添った授業を行っていく。これにより、子どもは、自らの学びを深め、満足感や充実感を感じることができるようになる。

さらには、個別最適な学びによるアプローチの効果を試し、子ども自身が自らの学習を自律的に進める姿も求めたい。自ら学習の道筋を選択し、調整しながら努力する姿は、新潟小学校が育成を目指している「挑む力」「やり抜く力」が発揮されている姿の一つである。

令和6年度から、個別最適な学びについて先行実践を研究し、試行してきた。令和7年度は、さらに実践を積み重ね、新潟小学校の子どもの実態にあった授業を追究する。加えて、タブレット端末の利活用は、個別最適な学びにおいて重要な位置を占めるため、より適切で有効な方法について検討を進める。

〈取り組みの具体例〉

- ・個別最適な学びに関する研究計画を立て、実践を進める
- ・個別最適な学びに関する実践を分析・検討し、その成果と課題を研究会で発表する
- ・タブレット端末の適切な活用を推進する

### ② 協働的な活動

子ども同士の関わりを広げ、深めることは、子どもの社会的なスキルの向上にとどまらず、自己肯定感の向上や思いやりと寛容性を育む効果も期待できる。最終的には子ども同士の関係づくりを醸成していくことを目指して、協働的な活動を充実させる。そこには、新潟小学校が高めようとしている「支え合う心」が深まっている姿を期待することができる。

その際、自らが所属している集団を向上させる活動を大切にしたい。例えば、学校生活を向上さ

せるために自らできることを考え、友達と協働的に取り組む活動を進める。この活動は、自らが所属する集団についての願いを話し合い、そのための方策を考え、実行する過程が大切であり、新潟小学校が高めようとしている「支え合う心」に加え、「挑む力」や「やり抜く力」も発揮することが期待される。

さらには、異年齢の関わりによる活動も充実させたい。異年齢の子どもと一緒に活動する場面では、自然と、上学年の子どもが下学年の子どもに配慮する姿が見られ、下学年の子どもは上学年の子どもを見て学ぶ姿が見られる。「認め合う心」の表れた姿である。

〈取り組みの具体例〉

- ・プロジェクト活動の充実
- ・異学年交流「たんぽぽ班」活動の充実
- ・異学年交流「ペア学年」活動の実施

### ③ 適切な支援

子どもは、一人一人多様な個性をもっている。その個性に応じた支援を行うことで、子どもは大きな成果を上げることができる。集団において個別最適な学びを大切にするとともに、個別の支援を必要としている子どもには、その個性に寄り添った支援を届けていく。

十分に、また効果的に適切な支援を届ける場として、特別支援学級がある。新潟小学校の特別支援学級においては、それぞれの個性に応じ、必要とされている支援を行っていく。同時に、通常学級の子どもにも、それぞれに個性があり、すべての子どもが安心し、「分かる」「できる」を実感できる学びを届ける必要がある。そのために、可能な限り、環境整備と支援の体制を充実させていく。また、早期の支援を行うと同時に、計画的な就学支援にも力を入れていく。

適切な支援を必要としている子どもが、適切にその支援を受けるためには、周囲にいる人々の理解も重要となる。子ども自身が、他者の多様な個性を肯定的に理解し、互いに尊重することで、一人一人の個性が生かされるようになる。この姿は、新潟小学校が高めようとしている「認め合う心」が深まっている姿でもある。また、保護者との情報共有、支援方針の合意形成を促進するため、コミュニケーションをこれまで以上に重視するとともに、特別支援教育を理解してもらう取り組みを進める。

〈取り組みの具体例〉

- ・リソースルームの活用
- ・安心して学べる学級づくりと子どもの多様な個性が生かされる授業
- ・適切な支援に関する保護者や児童への啓発

### 3 教育活動の基盤となる取り組み

#### (1) 地域と協力して教育活動を進める

新潟小学校は、その校区に歴史ある新潟市の中心地を抱え、その文化の継承を担うとともに、地域の様々な素材を学びに生かしていく。それにより、郷土や地域への愛情を深めていきたい。特に、新潟まつり等への参加や地域の商店街や施設、人とのつながりの中から教育活動を進めていくことを大切にしたい。また、コミュニティ・スクールの学校運営協議会を通して地域との協力関係を一層強化していく。

#### (2) ボランティアの協力を得る

新潟小学校は、以前から、保護者や地域のボランティアに支えられてきた。教育活動をより充実させるためには、今後もボランティアの力が必要である。そこで、様々なボランティアの在り方を検討するとともに、今後も多くの方に支援を求めていく。

#### (3) 保護者との連携協力、考え方の共有

子ども一人一人の健やかな成長には、保護者との考え方の共有がこれまで以上に重要となっている。学校と保護者が同じ方向を向いて子どもにかかわることで、子どもが抱える様々な問題を解決に導くことができる。保護者と職員とのコミュニケーションの重要性も一層増している。

#### (4) 中学校との連携

中一ギャップの解消など、諸課題の解決に向けて小学校と中学校との連携が不可欠である。寄居中学校とは、これまでも職員の合同研修や新潟まつりへの参加など、様々な場面で連携してきた。現在、義務教育9年間の学びを通した目指す生徒像を「よりよい自己と社会の実現に向けて共に挑む子ども」として共有している。今後も、「一小一中」の良さを生かして連携を進めていく。

#### (5) 働き方改革と職務遂行の向上

新潟小学校の職員が、余裕をもって子どもと向き合うため、質の高い教育活動を行っていくために、職員の働き方改善が求められている。改善を進める上での重要な視点として、職員が授業や教育活動の計画・準備を確実にこなせるような時間を保障するとともに、十分な研修を受けることで、その資質・能力を向上させることが必要である。